

科目名	医療看護実習Ⅱ(急性期)		前期～後期	3 単位
サブタイトル			実習	
担当者	横内 光子、藤原 由子、奥井 早月、渡邊 紀子、岸野 真由美、小野 聖子			
[アクティブラーニング授業]				
PBL(課題解決型)	○	反転授業	○	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○	
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	○	
その他	学内ではシミュレーション演習、臨地では実践演習	実務経験のある教員による授業	○	
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.周手術期にある患者、急性発症の状況にある患者の身体・精神・社会的な特徴について理解できる。 2.急激に変化する患者の全身状態に応じて提供される看護の内容とその意図を理解し、指導を受けながら看護を実践することができる。 3.患者が手術や侵襲的治療を受けるにあたり、利用できる医療資源や社会資源、短期的および長期的な支援を行う医療連携体制について考えることができる。 4.急性期にある患者とその家族に関わる姿勢や、急性期看護に必要な態度を身に付けることができる。 5.看護実践の体験を通して感じたことや考えたことを学生同士で話し合い、急性期にある患者の特徴と看護について考えることができる。 <p>[授業概要]</p> <p>成人期から老年期にある患者を対象とし、何らかの病気または傷害により、手術をはじめとする身体的負担の大きい治療を受ける急性期にある患者の身体・精神・社会的な特徴を理解する。患者およびその家族にとって、生命や健康が危機的状態におかれる体験の意味を理解し、回復に影響を及ぼす患者とその家族の特性をアセスメントすることで、苦痛を緩和し、患者とその家族のもつ回復力を最大限に引き出すための看護を学ぶ。</p> <p>科学的根拠に基づいた専門的知識と技能を総合的に活用し、手術や治療の侵襲による心身の反応をとらえながら、症状や苦痛を緩和し、予防的ケアを行う経験を通じて急性期看護の特徴を理解する。急性期にある患者との関わりを通して、これまでに学習した知識や技能、および倫理的・道徳的態度を統合し、実践する力を養う。</p> <p>実習では、急性期の実務経験のある教員と臨床における実習指導者が、急性期看護の実践ができる過程をサポートする。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>急性期看護論を含めた既習の関連科目の復習を行うこと。特に人体のしくみと機能Ⅰ・Ⅱ、疾病と治療Ⅱ、感染免疫学、栄養代謝学、薬理学などの医学的基礎知識についても十分に復習しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <p>病院にて、以下の通り3週間の実習を行う予定にしているが、社会的な感染症の蔓延状況によっては臨地に行く期日や時間が短縮される場合がある。また見学や参加等できない項目がある場合は、学内実習等で補うことがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.原則として、1～2名の周手術期患者あるいは急性疾患の患者を受け持ち、看護過程を展開しながらアセスメントと援助の実際を学ぶ。 2.原則として、受け持ち患者の検査や手術、血管内治療等を見学し、検査中、手術中あるいは治療中の看護を学ぶ。 3.手術前は、術前検査、術前訓練などを、手術後は、手術後の観察、手術後清潔の援助、離床の援助、退院指導などについて、指導を受けながら実施する。 4.実習内容は、一定の様式の実習記録に記載する。 5.日々のカンファレンスにおいて、情報や学びを共有し、学習上の問題解決を図る。 6.中間カンファレンスと最終カンファレンスにおいて、実習を通じて得た具体的な学びから、周手術期あるいは急性期にある患者・家族の特徴と看護の特徴について考察する。 				

科目名	医療看護実習Ⅱ(急性期)	前期～後期	3 単位
サブタイトル		実習	
担当者	横内 光子、藤原 由子、奥井 早月、渡邊 紀子、岸野 真由美、小野 聖子		
<p>[成績評価方法] 目標達成度(80%)、実習およびカンファレンスへの参加態度(20%)</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法] 実習記録に関しては、随時教員から学生に指導を含めたフィードバックを行う。実習の目標達成度においては、臨地における最終日において学生、実習指導者、教員の三者で面談を行う。自己評価表および最終レポートについては教員からのコメントを記載したうえで、臨地の実習指導者から紙面上で助言が得られた場合はそちらも合わせて学生へ年度末に返すこととする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-1/(プロフェッショナルリズム)生命、人の尊厳を尊重し、人々の基本的な人権を擁護する看護を実践することで、自立した看護専門職としての使命・役割と責務を果たすことができる。 成績評価方法:実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-2/(科学的根拠に基づいた課題対応能力)人々の健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和のために科学的根拠に基づいた専門的知識と技能が身についている。 成績評価方法:実習記録・最終レポート、実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護1-3/(人が病むことへの関心と理解)生活者としての視点から病む人に寄り添い、病むことへの理解を深め、集団・地域・社会といったコミュニティと人を育む力が身についている。 成績評価方法:実習記録・最終レポート、実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-1/(人間性の涵養)多様な社会・文化の中で生活している人々への真摯な向き合いから生涯にわたって自己の人間形成を図るとともに、科学的思考、倫理性、国際性が身についている。 成績評価方法:実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-2/(看護の表現力)自分との対話や他者との対話、社会との対話を通して自らを律していく力や他者と関わっていく力や社会に提言していく力が身についている。 成績評価方法:実習記録・最終レポート、実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護2-3/(倫理の実践と道徳的態度)看護実践における倫理の重要性をふまえ、倫理原則、倫理的判断過程、思考方法を学び、看護実習をとおして道徳的態度が身についている。 成績評価方法:実習記録・最終レポート、実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-1/(社会参加)社会参加を前提として自ら学び、最新の専門的知識・技能を探究していく。 成績評価方法:実習記録・最終レポート、実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>学科DP番号/DP内容:看護3-2/(協働・協力)保健医療福祉の連携の中で協働・協力して自ら活動していく。 成績評価方法:実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>[この授業と関連する大学全体の教育目標]</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:主体性/自分の意志・判断で行動する能力・姿勢 成績評価方法:実習記録 実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:責任感/社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢 成績評価方法:実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:自己理解/自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習記録 実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:協働性/立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢 成績評価方法:実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:多様性理解/自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢 成績評価方法:実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:表現力/自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢 成績評価方法:実習記録 実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:論理的思考力/筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力 成績評価方法:実習記録・最終レポート 実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:問題発見力/現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力 成績評価方法:実習記録 実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>教育目標が示す資質・能力等/資質・能力等の内容:計画・実行力/課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力 成績評価方法:実習記録・最終レポート 実習・カンファレンスへの参加態度</p> <p>[教科書 (ISBN)] ナーシング・グラフィカ 成人看護学④周術期看護 著者名:中島恵美子・山崎智子・竹内佐智恵編 出版社:メディカ出版 (987-8404-7539-6)</p> <p>[参考書 (ISBN)] 「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」第11版 著者名:矢永勝彦他編 出版社:医学書院 (978-4-260-02769-4) 「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論」第11版 著者名:北島政樹他編 出版社:医学書院 (978-4-260-02765-6) 成人看護1 第2版 急性期・周手術期 パーフェクト臨床実習ガイド 著者名:井上智子 出版社:照林社 (978-4796523943)</p>			

P11201490 [NNB3-018]